

事務事業評価シート（評価対象年度：令和 元 年度）

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	コミュニティバス運行事業					②事業番号	3217
③事業類型	2. 法上(任意)事業			④開始年度	平成 13 年度	⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等	法令	条例	規則	要綱	計画等	○ その他	法令等の名称: 泉南市コミュニティバス運行に関する協定書
⑦実施手法	○ 直営	全部委託	一部委託	○ 補助・負担	○ その他		
⑧関連予算科目コード	款	7	項	2	目	2	細目 3
⑨担当部名	⑩担当課名			会計 一般会計			
市民生活環境部	環境整備課						

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 運転業者	① バス台数	台
② 市民(70歳以上の高齢者と障害者)	② 市民(70歳以上の高齢者と障害者)	人
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
運転業者へ補助金を交付し、さわやかバスを協定書に基づき安全かつ適切に運行してもらう。現在はバス4台、14コース、35便で運行。 市民(70歳以上の高齢者と障害者)に対して、コミュニティバスが無料又は半額で利用できる割引乗車券を発行する。	① 利用者数	人
	② 割引乗車証申請件数	件
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
市民の生活交通、高齢者の方や障害者の方に対する交通手段を確保する。	① 利用者数	人
	② 申請率	%
	③ 計算式	申請件数÷市民(70歳以上の高齢者と障害者)
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
市民の快適な移動手段が確保でき利便性が向上する。	政策(章)	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち
	施策大(節)	2 活気にあふれるとともに快適で美しく、市内・市外がネットワークで緊密に結ばれ、だれもが使いやすいまちをめざします
	施策中	2 バスの利用促進
	施策小	1 路線の充実と車両の増強

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	
対象指標①	バス台数	台	4	4	4	4	4	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②	市民(70歳以上の高齢者と障害者)	人	16,655	17,275	17,746	18,000	19,332	
活動指標①	利用者数	人	156,631	151,477	153,093	155,000	158,000	
活動指標②	割引乗車証申請件数	件	801	421	428	—	—	—
活動指標③								
成果指標①	利用者数	人	156,631	151,477	153,093	155,000	158,000	
成果指標②	申請率	%	5	2	2	—	—	事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.30	0.57	0.57	0.57	0.57	
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	事業費	千円	2,409	4,621	4,396	4,396	4,396	—
財源内訳	人件費(投入人員×単価)	千円	57,993	52,602	52,607	52,619	52,619	
	直接事業費	千円	60,402	57,223	57,003	57,015	57,015	
	総事業費	千円	60,402	57,223	57,003	57,015	57,015	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	—
	府支出金	千円	0	0	0	0	0	
	受益者負担金	千円	0	0	0	0	0	
	その他特定財源	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	60,402	57,223	57,003	57,015	57,015	

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	路線バスの廃止に伴い、市民の生活交通や高齢者の方や障害者の方に対する交通手段を確保するため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	平成11年ごろから路線バスが廃止されていき、自動車等の無い交通弱者には非常に不便であったが、平成14年2月よりバス2台、4コース、16便で開始し、現在はバス4台、14コース、35便で運行している。平成19年から70歳以上の高齢者を対象に半額の割引とした。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	平成29年度の契約から運行時刻・路線の見直しを行い、1日当たりの総便数は減っているが、年間の利用者数は15万人程度で推移して増加傾向にある。

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価 **A**

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	市民の快適な移動手段が確保でき利便性が向上している。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	民間が出来ないので市が補助金を出して行っている。また高齢者の方や障害者の方に対して市の支援が必要である。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	可能な限り市民のニーズに応えられるようには努めている。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	市民の生活交通、高齢者の方や障害者の方の交通手段に対し多大なる影響が出る。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価 **A**

⑤期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	市民の利便性の為に移動手段の提供が出来ている。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	乗車料金を下げるとか路線や便数を増やしたりすると乗客人数は増えるが、市の支出がかさむ結果になる。コミュニティバスをもっと市民にPRし利用してもらう。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	—

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価 **A**

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	プロポーザルで選定した業者に5年間の長期契約で行っているため削減は出来ない。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	5年間の長期契約中であるため運賃の改定は困難。平成19年2月末まで70歳以上の高齢者は無料だったのが現在は半額負担となっている。

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	平成28年度実施したアンケート結果を踏まえ、平成29年度から運行時刻・路線の変更を行い、今後も市民の生活交通、高齢者の方や障害者の方に対する交通手段の確保に努めると共に、より多くの市民に利用していただくよう改善していく。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

イ	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止	(年まで) (年から) (年から)
	<今後の展開方針> - 重点化する(集中的なコスト投入) - 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) - 効率化する(コストを下げる) - 簡素化する(規模を縮小する) - 統合する(他の事務事業と統合する)	
①改革、改善の具体案、実施年度など		平成28年度に実施した利用者アンケートの結果を踏まえ、平成29年度からの契約でバス路線、運行時刻等について見直しを行い、さらに市民のニーズに応えられるよう努める。
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		予算の範囲内で出来る限り市民ニーズに応えられるよう努める。